

御嶽神社あれこれ

「みたけとおひなさま」
「三十六歌仙絵額」と「古今雛」

日本人形玩具学会会員
齋藤 慎 一

江戸時代も中頃、江戸の市民達は古今集風の和歌、古典を念頭にした俳諧をたしなみ、源氏物語や枕草子への興味も生まれました。幕府の「歌道方」であった北村季吟（一六二四〜一七〇五）の「源氏物語湖月抄」「枕草子春曙抄」も刊行、流布しています。

北村季吟の弟子であった松尾芭蕉の「内裏雛人形天皇の御宇とかや」（俳諧江戸広小路）延宝二年（一七七八）序は、内裏雛の初期の例ですが、雛人形に平安時代の優雅さを造型しようとしていた気分を伝えています。内裏とは、平安時代の皇居、転じて天皇のことです。天皇を連想する一対の坐り雛が男雛は冠に「束帯」で、女雛は俗に「十二単衣」という「裳唐衣」に似せた姿であったわけ

です。「人形天皇の御宇とかや」の部分は在原業平の恋物語の能「杜若」の詞草「仁明天皇の御宇とかや」に依拠します。武蔵御嶽神社の拝殿には、弘化二年（一八四五）に、新しくした、平安時代の勅撰和歌集の筆頭「古今和歌集」などの名歌人（歌仙）三十六人の歌と絵姿を描いた「三十六歌仙絵額」三十六面が飾られています。

古今集に登場する歌人の優美な絵姿は、すでに鎌倉時代に定型化して何種類も存在しました。それらを模写した

「粉本」（模本）は、平安時代以来の倭絵でした。御嶽神社の「三十六歌仙絵額」三十六面もそれによっています。

こうした三十六歌仙絵額は、江戸を中心とする徳川家造営の社殿、下野の日光、武蔵の川越、江戸上野の各東照宮の拝殿に掛けられています。御嶽は、慶長十一（一六〇六年）に二代将軍秀忠、元禄十三年（一七〇〇年）に五代将軍綱吉の造営（公儀普請）です。御嶽の拝殿にも、今度の調査で「三十六歌仙絵」が以前から存在した可能性を推定できる次の記録が見つかりました。

享保四年（一七一九年）の「武州御嶽蔵王権現内陣神宝目録」（黒田忠雄家文書）に「拝殿」に宝物として「百人一首歌いた一枚二人ツよむ歌 いた数八枚有り」の記述です。「百人一首いた」とは、百人一首の読み札のように、歌人を描いていた板額で、元禄十三年には拝殿に掛けられていた「三十六歌仙絵額」の残りと思われる。

江戸時代の人々にとって、倭絵風の王朝姿の歌人が極彩色で描かれた三十六歌仙絵は、内裏雛の姿など、平安風雛人形づくりの参考になったことでしょう。しかし、歌仙絵もそうですが、平安貴族の衣裳は織物で地味なので、金襴・錦の華やかな文様に、引目勾鼻も今風の美形に



御嶽山に暮らすムサビムサくん

ムサくんだより



やわらかなみどり色のカエデの葉

「森のパレット」
里より少し遅れて、御岳山に春が訪れます。

花が咲き始め、木々が芽吹き、虫や鳥が活発に活動を始める。そんな春の御岳山で、森の「色」に注目してみてください。そこにはたくさんの「色」が溢れていて、森の個性を際立



「春の御岳山」
みどり色、淡いピンク色など、春は森の個性が感じられる季節です。

たせています。たとえば、「みどり色」。

皆さんは、日本語で「みどり色」を表す言葉がどのくらいあると思いますか？私が確認したもののだけでも、なんと三十七種類もありました。たしかに森の中の「みどり色」は、濃いみどり、やわらかいみどり、黄色がかったみどり、など多様です。

春の森では、他にもさまざまな「色」を見つかることができます。ビジターセンターから神社の森や日の出山方面を眺めると、まるで色とりどりの森のパレットが目の前に広がっているように感じます。皆さんも、遠くから、近くから、ぜひ観察してみてください。

みたけの重忠くん



変えられました。姿形は歌仙絵の平安風色彩、目鼻立ちは江戸好みです。こうして江戸時代後期十八世紀後半頃には、新しく江戸で「古今雛」という様式が規格化されて一世を風靡し、現在みる雛人形の十五人揃いに発達したのです。

文化年間の川柳にいう「祖母次郎左母つばりに嫁古今」という古雅な次郎左衛門雛から、袖をつばった享保雛へ、そして今の古今雛という変化です。今様の江戸好みの古今雛を考えだしたのが、人形師の原舟月の初代と二代とされ、特に二代目三代目の名作が残りますが、二代目は古今亭、三代目は古今齋と称したことは、まさに平安風をより江戸人主体の雛人形の新様式、流行の「古今雛」創始、製作の作流の誇示でしょう。しかも「古今」とは江戸時代の和歌の本流「古今和歌集」に由来し、古今集の三十六歌仙の絵姿を重ねたからでしょう。当時平安時代という歴史用語はなかった。古今雛について当時の人形問屋は「女性ごのみ」で、「柔和なもの」と説明しています。まさに、江戸の武家から町人までが学んだ「古今和歌集」の女性的美学の「手弱女風」です。三十六歌仙絵には、内裏雛の束帯や裳唐衣姿を、様々な姿態方向から描いてみせ、「矢大臣」など、弓矢を持った武官（近衛の中・少将）の在原業平や藤原高光も描かれます。もしかすると「古今雛」に矢大臣を加えたのは、三十六歌仙絵の影響かもしれない。武家と町人の都・江戸の好みに造型した

古今時代公家風俗の世界です。雛子方が武家好みの能楽の五人雛子、天皇がつけるはずのない太刀を男雛に佩せ、女雛の頭に天冠をのせ、有職に反する二重眉であるのは古今雛が江戸からの空想・想像の所産であった証拠です。江戸の雑俳「桃の花のさかりなりけり内裏雛」とは江戸での時空を越えた想像の平安（古今）時代へのあこがれの事情を端的に伝えます。

青梅の文人、大奥出入りの古道具商人山田屋黒田庄左衛門徳雅の「永久田家務本伝」に「古今雛」の流行の頃、一七七〇年代の追憶として「内裏雛には母と姉の在り候頃は、江戸へぬり直しに遣わし、ぬりかへ候て、衣裳は母の□□□錦をとり候て仕立られ候よし。昔形ながらよき雛と存じ候」と述べています。修理にあたいする雛が青梅の町屋に伝えられ、錦の衣裳着の雛が愛玩されています。王朝を偲ぶに足る三十六人の平安時代を偲ぶよすがの、古今和歌集のころの貴族達の絵姿が、青梅の町に近き武蔵御嶽神社拝殿に掛けられていました。江戸人の文化の状況を、ゆかしく思います。また、青梅住吉祭礼五月二・三日に、青梅本町の会所に飾られる神功皇后と武内人形は、江戸末期の円熟した三代古今齋原舟月の名作で、胡粉仕上げの肌理も見事な貴婦人と老臣の容貌に、すぐれた「古今雛」の制作者の手際を鑑賞することもできるのです。

当社へお越しいただけない
崇敬者の方へ

本来は、神社にご参拝いただき、祈祷札・お守りを直接授与させていただくところですが、当社の標高は約1000mの山頂に鎮座しているため、諸事情によりどうしても参拝の叶わない方がいらっしゃいます。

また、近年は新型コロナウイルス感染症対策等の影響により、外出が制限され一層参拝が厳しい社会情勢となっております。

諸般の事情で、どうしてもご来社が叶わない崇敬者の方の為に、郵送等（国内のみ）による発送も承っております。

- お申込みいただいた願回事とお名前を神前にてご祈祷した後、発送させていただきます。
- お祈り祈願の申込み☆
 - 願意（願回事は二つまで）
 - 玉串料 三千元・五千元・二万円（神棚の高さに制限のある方はご相談下さい）
 - 人生儀礼 祈祷の場合
 - 厄除け・初宮等の方は生年月日を必ずご記入下さい
- ☆お守り☆ お守りの種類と個数
- ☆門札☆
 - 大口真神札・火難除け・疫病封じ等
 - 門札の種類と枚数
- ☆愛犬祈願☆ 愛犬の名前と願意（願回事は二つまで）
- ☆犬形代☆ 枚数

※送料を申し受けます（宅急便は着払い）
※山頂の為、お手元へ到着まで、数日かかります。お急ぎの方は余裕をもってお申し込みください。
※祈祷の願意・お守りの種類等ご不明点がある場合、お電話にてご案内させていただきます。

○電話受付時間・・・9時～16時
お電話のかけ間違えにご注意ください
電話・・・〇四二八・七八・八五〇〇